

平成29年度 部局長マネジメント方針

社会教育部長 やすなが 安永 しろう 史朗



仕事に対する基本姿勢

社会教育部は、多種多様な事業、取り組みを展開することにより、生涯学習、青少年の健全育成、市民スポーツ、市民文化・芸術を推進する役割を担っております。また、図書館や体育館など所管している多くの施設や生駒山の自然を利用することにより、市民の皆様がより良い体験、体感ができる機会を提供しております。

これからは、幅広く的確に情報を吸収し、十分に考察や議論を重ね、先を見据えた計画や方針を立て、事業展開をしていくことが必要です。そのためには、改めて事業検証することが不可欠です。また、施設につきましても、これからのニーズを捉え創意工夫し、市民の皆様が「また利用したい」と感じていただける施設を目指してまいります。

社会教育は身近なものですが、少しわかりにくいところもあります。今後も、よりわかりやすく、そしてより心のこもった社会教育を進めてまいります。

平成28年度の振り返り

1 留守家庭児童育成事業の充実

子ども・子育て関連3法及び関連法の改正を踏まえ、本市において平成27年度より新制度が施行され2年が経過しました。平成28年度においては全クラブで小学6年生までの受け入れを行い、保護者負担金の減免制度を多子世帯まで拡充しました。

また運営につきましては22クラブが地域運営委員会、29クラブが民間事業者による運営となりましたが、今年度にはいり民間事業者の運営も安定してきております。

今後も、地域、学校、保護者との連携をさらに深め、改善すべきところは改善し、より一層円滑かつ安定した運営が行えるよう進めてまいります。

2 河内寺廃寺跡史跡公園の整備

国史跡である河内寺廃寺跡につきましては、文化庁及び河内寺廃寺跡整備委員会の指導のもと、平成27年度から整備工事に着手しました。平成28年度には、前年度に引き続き水

道・電気の施設整備や植栽等の造園工事を行い、整備工事はほぼ終了しました。

平成29年度に取り組む重点課題

1 河内寺廃寺跡史跡公園の整備

「河内寺廃寺跡」は近鉄奈良線の瓢箪山駅と枚岡駅との中間あたり、線路の西側に位置しています。これまでの発掘調査で古代寺院の金堂や講堂、回廊の基壇や礎石が発見されています。塔・金堂・講堂が南北一直線に並ぶ、四天王寺式伽藍配置をとる河内寺廃寺は、河内地方にあって飛鳥時代後期に建立された寺院の遺構として貴重で、平成20年3月に国史跡に指定されました。

「河内寺廃寺跡」を市民の皆様に身近にふるさとの歴史を感じていただける憩いの場として活用できるよう、平成27・28年度に整備工事を実施いたしました。平成29年度については、その当初に残工事を施工し、早い段階に一般公開を行います。

2 家庭教育支援の充実

家庭教育支援につきましては、平成27年12月に教育委員会内におきまして「家庭教育支援に係る検討会議」を設置し、多様化する家庭教育支援の在り方について検討してまいりました。その結果、平成28年度は「早寝・早起き・朝ごはん運動」に焦点を当て、幼児から中学生までの保護者を対象として生活習慣や生活リズムの大切さについて啓発していく取り組みを実施しました。

生活習慣の改善は子どもたちの健康増進ひいては学力向上につながるものと考えておりますので、今後も工夫をした周知、啓発を行い、さらなる充実に努めてまいります。

3 地域教育協議会との連携

地域での総合的な教育力を活性化させるため、学校園・地域教育関係者で構成される地域教育協議会が各中学校区に設置されています。各地域の特色を活かした様々な事業・取り組みを自主的に行っています。今後は、平成31年度に小中一貫教育が全中学校区で実施することも視野に入れ、地域での家庭教育支援、学校園教育支援が重点的に展開できるよう、一層の連携を図ってまいります。